

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 施設所在地 | 江東区亀戸3-62-15 ミオカステーロ亀戸Ⅱ101 |
| 施設名   | もりのなかま保育園亀戸園               |

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

日常にある物や事象に対する探究

〈テーマの設定理由〉

昨年も同テーマで探究活動を実施し、子どもたちが興味や関心をもって主体的に活動に取り組む姿が見られた。継続して身近なものや事象に触れ、多角的な視点から捉える経験を重ねることで、好奇心を育み、新たな発見や問いへとつながる機会になると考え、本テーマを設定した。

2 活動スケジュール

4月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～ゼリー～  
5月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～風船～  
6月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～土と泥～  
7月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～水～  
8月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～水～  
9月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～布～  
10月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～光～  
11月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～磁石～  
12月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～紙～  
1月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～音～  
2月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～ゴム～  
3月 「日常にある物や事象に対する探究」 ～におい～

※各テーマは毎月複数回実施し、子どもの興味や反応を踏まえながら内容を調整し継続的に行った。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・粉類、食紅、ゼラチン、風船、砂、各種紙等、子どもの興味に応じた素材を準備した。
- ・トレー、マドラー、スポイト、カップ等、子どもが扱いやすく探究を継続しやすい道具を使用した。
- ・少人数で実施し、子どもの気付きや発信を保育者が丁寧に受け止められる環境を整えた。
- ・事前に安全面を確認し、安心して活動に取り組めるよう配慮した。

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

昨年度に引き続き、身近な題材を通して日常にある物や事象について子どもたちが探究していく活動を実施した。

毎月複数回活動を行い、初回の活動後には、子どもの興味や反応をもとに次の活動内容を工夫し、継続して取り組んだ。またその過程や成果を記録・共有し、振り返りを次の活動に活かす形で進めた。

紙の活動では、トイレトペーパーや画用紙、ペーパータオル、ティッシュ等の様々な紙が水に溶けるかどうかを観察した。さらに、その紙や水に触れて、色を付ける、捏ねる、固めるなど変化や感触の違いを体験した。

光の活動では、ライトテーブルやブラックライトを使用し、身近なものの見え方の違いを観察したり、自身の描いた絵を照らすなど、光の性質に触れ、不思議さや発見を共有した。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

子どもたちは、それぞれの興味に応じて素材に関わり、自ら試したり繰り返したりしながら活動に取り組んでいた。紙の活動では、水に入れた際の変化を見て驚いたり、触れて確かめたりする姿が見られ、色を付けたり形を変えたりしながら違いを楽しんでいた。光の活動では、普段と異なる見え方に気づき、保育士や友だちと共有しながら観察する様子が見られた。

昨年度経験のある児は主体的に活動を進める姿が多く見られた。今年度から参加した児も、はじめはそっと触れ、慣れていくうちに、自分なりに試したり、繰り返したりする様子が見られた。回を重ねていくほどに自発的に試し、じっくりと探究するようになっていった。それぞれが自分が思ったように活動を進めていくことで、興味をもって参加し、好奇心や探究心を深めていた。子どもたちが主体的に探究し、発見を楽しめるように、保育士の声掛けの内容やタイミングに留意した。また、様々な想定をして物の準備をし、子どもたちの「やってみたい」を叶えていく環境づくりも大切にしたい。

少人数の友だちと一緒に行動することで、遊びの中で自分と他者との違いに気づき、それをどれも認められる経験を通して、自己肯定感や他者との違いを認め合う気持ちが育まれるように意識した。友だちと顔を見合わせて笑い、喜びや驚きを共有する様子が印象的だった。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちは保育士の想定以上に、それぞれの視点で事象に関わり、自ら問いをもち、試しながら探究する姿が見られた。声掛けや環境構成の工夫によって、子どもの関わり方や探究の深まりが変化することを実感し、保育士の関わり方の重要性を改めて認識した。

昨年度から継続して取り組んできたことで、日常の遊びの中でも自然に問いをもち、主体的に試そうとする姿が増えていると感じる。

小規模園の特性を生かし、少人数で丁寧に関わることで、友だちとの違いに気づき、互いを認め合う経験にもつながった。